



浄土真宗本願寺派 順光寺 寺報



順光寺だより

第11号

2026(令和8)年7月1日発行

2025年夏、総代の皆さまのご協力をいただき、本堂東側通路の菖蒲の花を植え替えました。

住職挨拶

順光寺住職 籠 純吾

慈光照護のもと、皆さまにおかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

平素より当寺の護持運営にあたり、皆さまには温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、このたび当寺では、長年の課題でありました永代合葬墓を建立することができました。

近年、それぞれのご家庭の事情や時代の移り変わりの中で、お墓に対するお悩みやご不安のお声を伺うことが増えてまいりました。そのような中で、永代合葬墓の建立が、皆さまのお気持ちに少しでも寄り添い、安心につながるものとなれば、これほどうれしいことはありません。

お寺は、亡き方をご縁として仏さまのみ教えに出遇わせていただく大切な場でもあります。これからも順光寺は、皆さまお一人おひとりの想いに応えながら、安心してお参りいただけるお寺であり続けたいと願っております。

今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



総代長挨拶

順光寺総代長 福井昭夫

寺報「順光寺だより」第11号をお届けします。編集委員の皆さま、ご執筆いただいた皆さまに厚く感謝申し上げます。

一昨年度、順光寺の境内の整備事業を行い、昨年度は、長年の課題でありました永代合葬墓を建立。併せて、本堂のエアコン工事も行いました。

門信徒の皆さまのお支えをいただき、順光寺のハードウェアの整備は、ほぼ一区切りを迎えることができました。

これからは、その整えられた場をどのように活かしていくのかがよりいっそう求められていると感じております。法要や行事の充実はもちろんのこと、皆さまが親しみをもってお参りできる場づくり、世代を超えて仏さまのみ教えにふれる機会づくりなど、いわば、ソフトウェアの面を丁寧に育てていくことが大切です。

これからも、皆さまとともに、安心して手を合わせることのできるお寺、心のよりどころとなるお寺を目指してまいりたいと存じます。今後とも変わらぬお力添えを賜りますよう、どうぞよろしく願い申し上げます。



順光寺トピックス

「永代合葬墓」 建立

時代の変化とともに、お墓のかたちも多様になりました。

そんな中、順光寺では多くの方にご安心いただくために、本堂の手前に「永代合葬墓」を建立しました。「永代合葬墓」とは、個別の墓石を設けず、合同のお墓に納骨するものです。

春と秋のお彼岸の前後に、お勤めをいたします。

なお、所定の使用懇志を納めていただく以外、寄付金や管理費は不要です。

大事な方のお骨を、永代にわたりお護りいたします。将来のお墓のかたちにお悩みでしたら、どうぞお気軽にご相談ください。
※ご生前の予約も承ります。まずはご相談ください。



本堂エアコン設置

毎年暑い日が続くこともあり、以前から本堂のエアコン設置のご要望をいただいていた。

2025年7月、取り付け工事が完了し、ご参拝の皆さんが、快適にお過ごしいただけるようになりました。

左右の壁に1台ずつ、計2台と扇風機の併用で本堂の空気を冷やします。見かけは小さいですが、性能は高く、真夏日でも本堂の中は快適です。

2025 (令和7) 年度 行事報告

婦人会お花見 〈5月10日〉

出雲市のしまね花の郷に行きました。天候も良く、景色を堪能しました。



門信徒総会・ハープ演奏会 〈6月15日〉

2024年度の事業報告・決算報告、2025年度の事業計画・予算などについて、ご意見をいただきました。

総会の後、アトラクションとして、順光寺の「葵ハープ教室」の皆さんに演奏をお願いしました。



盆前清掃 〈8月2日〉

お盆前の一斉清掃。ご門徒の皆さまと一緒に本堂や境内のお掃除、仏具のお磨きを行いました。

おかげをもちまして、今年も気持ちよくお盆を迎えることができました。



盆合同法要 〈8月15日〉

今年で3回目となる「盆合同法要」。8月15日の午後2時から、本堂で一緒にお盆のお勤めをさせていただきました。



報恩講 〈11月2日〉

浄土真宗の教えをお遺しくくださった宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲び、お聴聞をさせていただく法要。浄土真宗の寺院では、年間を通して最も大切とされる法要です。ご講師は、佐々木俊教師（出雲市・覚専寺住職）。ご門徒の皆さまと一緒に聴聞させていただきました。



元旦会 〈1月1日〉

年の初めに御尊前にお礼をし、心を新たにする法要です。お勤めの後、お参りの皆さんと一緒に抹茶をいただきました。



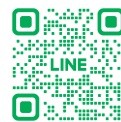
春彼岸・永代経法要 〈3月20日〉

亡き人をご縁とし、故人を偲びながら、ご自身が聞法のご縁をいただく法要。毎年、春のお彼岸の中日にお勤めしています。阿弥陀経をお勤めした後、お彼岸の意味合いについて、住職からお話しさせていただきました。婦人会の皆さんによる紙芝居は、人気ドラマ「ばけばけ」にちなんで怪談ものでした。



順光寺SNSのご案内

順光寺の公式LINE・SNSで、ご門徒の皆さまに順光寺の情報を発信します。ご利用の方はぜひフォローをお願いします。



浄土真宗本願寺派順光寺寺報
順光寺だより 第11号

2026 (令和8) 年7月1日発行

編集 順光寺寺報編集委員会

発行 浄土真宗本願寺派
豊饒山 順光寺

印刷 株式会社谷口印刷



浄土真宗
本願寺派

順光寺

揮毫：細田青秀氏（順光寺ご門徒）

〒690-0881 松江市石橋町44

TEL 0852-23-3718 FAX 0852-67-3276

E-mail info@junkouji.or.jp

公式サイト https://junkouji.or.jp

順光寺 検索

facebook junkouji.matsue

X @Junkouji

instagram junkouji_matsue



フォト法話

Photo by Nagatani Jungo

花火の光

法話・写真 瀧 純吾（住職）

無明長夜の灯炬なり 智眼くらしとかなしむな
生死大海の船筏なり 罪障おもしろとなげかざれ
(正像末和讃)

ご近所にある千手院さんの展望台から、松江水郷祭の花火を撮影しました。

夏の夜、空いっぱいに広がる花火を見上げると、思わず「きれいだなあ」と見入ってしまいます。大きな音とともに打ち上がり、夜空にぱっと花が咲く。その美しさは、私たちの心を明るくしてくれます。

けれども花火は、いつまでも空に残るわけではありません。どんなに美しく咲いても、やがてすっと消えていきます。その姿を見ていると、私たちの人生にもどこか似ているように思います。楽しいこともうれしいことも、ずっとそのままではありません。反対に、苦しいことや悲しいこともまた、いつまでも同じではありません。私たちの毎日は、移り変わっていくものです。

これを仏教では、「諸行無常」と言います。すべてのものは変わり続け、同じままではいられない、ということです。そう聞くと少し寂しく感じますが、親鸞聖人は、そのような移ろう私たちを、阿弥陀さまがそのまま見捨てずに照らしてくださっているとお示しく下さいました。

親鸞聖人は、阿弥陀さまを「無明長夜の灯炬」とお示しく下さいました。暗く長い闇を照らす大きなともしび、という意味合いです。

花火の光は美しいけれど、すぐに消えてしまいます。しかし、阿弥陀さまのお慈悲の光は消えることがありません。元気な時だけでなく、悩んでいる時も、落ち込んでいる時も、腹を立ててしまう時も、そんな私をそのまま包み込んでくださる光です。

花火を見上げながら、消えていくものの美しさとともに、消えることのない仏さまのお慈悲に思いを向けてみたいものです。慌ただしい毎日の中でも、「南無阿弥陀仏」とお念仏申すご縁をいただき、阿弥陀さまに見守られている身であることを味わいたいと思います。

花火は消えても、仏さまのお慈悲は消えません。そんな安心を胸に、今日もまた歩ませていただきましょう。